

## (11) 九州



九州地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

### 前回からの主要変更点

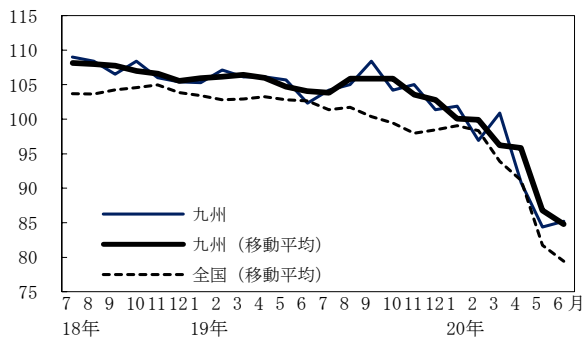
	前回（令和2年5月）	今回（令和2年9月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4－6月期には、電子部品・デバイスは、トランジスタ、半導体集積回路（CCD・その他）等が減少した。輸送機械は、普通乗用車等が減少した。食料品は、減少した。汎用・生産用・業務用機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が減少した。化学・石油石炭製品は、有機化学薬品（芳香族）等が減少した。

#### 鉱工業生産指数



#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	13.6	6.9	▲13.1	▲25.7	▲0.1	▲6.0
輸送機械	13.5	▲8.3	▲37.4	▲28.5	▲18.8	26.6
食料品	12.2	▲0.5	▲1.0	0.0	▲3.0	▲1.1
汎用・生産用・業務用機械	12.2	▲10.2	▲9.8	▲2.1	▲17.5	34.7
化学・石油石炭製品	10.0	▲4.3	▲5.0	2.3	▲12.5	▲2.1
鉱工業	100.0	▲3.5	▲13.1	▲10.0	▲7.0	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

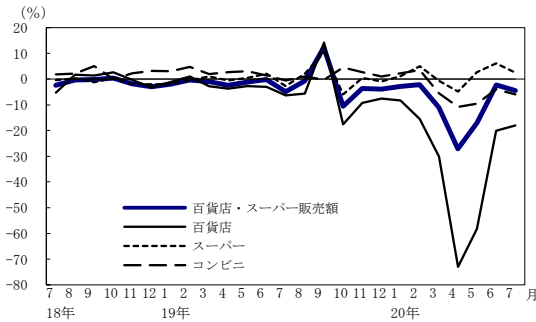
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前年比10.6%減、5月は同2.5%増、6月は同9.1%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、衣料品等が減少し、前年を下回ったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。  
スーパーは、4-6月期は、飲食料品が増加したことにより、前年を上回った。  
7月の百貨店・スーパー販売額は、前年同月比4.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲8.9	▲10.6	2.5	9.1	—
百貨店・スーパー*2)	▲15.3	▲27.2	▲16.9	▲2.3	▲4.5
百貨店*3)	▲50.1	▲73.0	▲58.2	▲20.1	▲18.1
スーパー*3)	1.4	▲4.9	2.7	6.1	2.5
コンビニ*3)	▲8.1	▲10.8	▲9.6	▲4.0	▲6.0
乗用車*4)	▲32.2	▲29.1	▲47.2	▲21.5	▲10.7
(季節調整値) *4)	▲16.1	▲10.8	▲21.9	34.3	18.1

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
2020年7月は速報値。

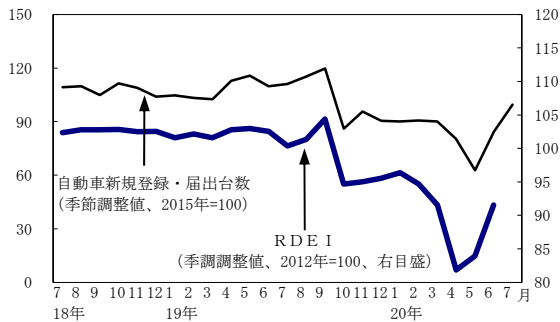
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。  
コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

2020年7月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)

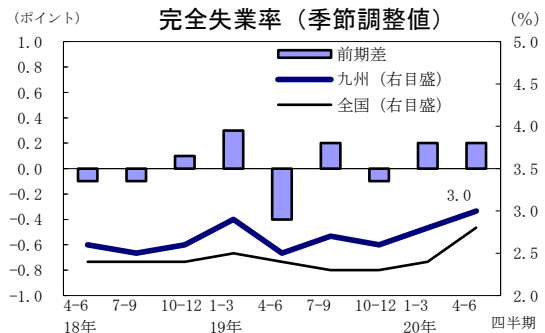
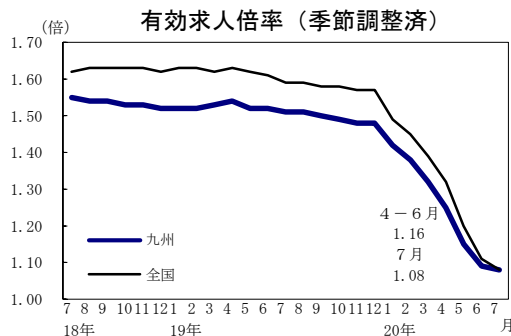
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	判断		判断の理由
	分野	判断	
現状	家計 動向 関連		・ 6月下旬からやや客の出足が増えてきたが、また、第2波の予兆があり、事態はなかなか予想しづらい状態である(商店街)。
			・ 一般宴会や婚礼宴会の利用は相変わらず低調であるが、特に週末の昼間のレストランはにぎわいを取り戻している。宿泊も連休を中心に週末の利用が徐々に増えている(観光型ホテル)。
			・ 新型コロナウイルスの影響で、集客が戻っていない。国からの補助やキャンペーン等で何とかしのいでいるが、第2波の到来に大変危機感を抱いている(一般レストラン)。
	企業 動向 関連	×	・ 新型コロナウイルスの状況に、好転の兆しが無い(通信業)。 ・ 新型コロナウイルスが、大きく影響している(電気機械器具製造業)。 ・ 新型コロナウイルスの影響以外に、集中豪雨による災害で工場がストップする等の要因で、生産がかなり落ちている状況である(その他製造業[産業廃棄物処理業])。
			・ 売上は、前年比減少のままではあるが、4~5月と比較すると徐々に回復している傾向にある。緊急事態宣言が解除され経済が動き出したことが、そのまま貨物の荷動きに反映されている(輸送業)。
雇用 関連		・ 一般企業の求人は減少傾向であるが、官公庁関係の給付金支給に関する事務の依頼が増えている(人材派遣会社)。 ・ 新聞広告の量を見ていると、4~5月が底で、6~7月は上向いてはいるが、前年と比較すると、かなりの落ち込みである。景気が良くなっているとはいえない(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント		： 入店客数は、前月より増加しているため、売上も徐々に戻りつつある。ただし、新型コロナウイルスの影響で、高齢者の動きはまだ少ない(百貨店)。 ： 中小事業者や個人事業主は、セーフティネットや給付金等で資金的には落ち着いているが、肝心の営業面で売上が、春先から今月に掛けて、特に飲食業や旅行業、旅館業を中心に売上が落ちており、売上が50%以下の状態が続いている(金融業)。	
先行き	家計 動向 関連		・ 新型コロナウイルス発生以前の状態、若しくは若干悪い状態が継続すると予想している(スーパー)。
			・ 第2波の兆候があり、悪くなる一方で、今後がとても不安である。閉店した同業者も多く、どうにか頑張りたいが、経済も厳しい状態で、今後の政府の対策に期待をしている(美容室)。
	企業 動向 関連	×	・ 商業施設の売上低迷が継続する(不動産業)。 ・ 令和2年7月豪雨による被害で、休業状態である。回復まで厳しく、深刻である(食品製造業)。
			・ 主な要因である新型コロナウイルス感染を収束させることが、最も効果ある対策であると考えられるが、当面の間期待できない(職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		： 新型コロナウイルスの影響で停滞していた事業が、様子見ながらも動き出している。官公庁の観光事業では、Go To トラベルキャンペーンの動きも活発化している(通信会社)。 ： 前月と同様に新型コロナウイルスの影響で、生産数減少傾向となっている。まだまだ見通しの付かない状況にあり、生産負荷の減少が続くと考えられる(精密機械器具製造業)。

(D I) 現状・先行き判断D I (九州)の推移 (季節調整値)

